

15. 国際協力室

室長 熊谷 優子

概要

現在、公衆衛生上の大きな脅威となるような新興・再興感染症が、地球上のあらゆる地域から、短期間のうちに我が国国内に侵入する可能性がある。SARS、鳥インフルエンザなど新たな病原体による感染症が見つかる一方、未だ多くの感染症が我が国及び周辺国において流行を繰り返している。このような状況のなか国民を感染症から守るため適切な対応を取っていくには、世界規模での情報収集、研究・技術面での国際貢献等、世界保健機関（WHO）や諸外国の研究機関や国内関係機関等との連携調整が重要である。

国際協力室は、平成9年設置後、国立感染症研究所の所掌事務に係る国際的な協力と調査及び研究の調整を行っている。具体的には、外務省、独立行政法人国際協力機構（JICA）、社団法人国際厚生事業団（JICWELS）等から厚生労働省、国立国際医療研究センター等を通じて依頼される開発途上国等に対する技術協力（外国人研修員の受け入れを含む）の調整、世界保健機関（WHO）・世界保健機関西太平洋地域事務局（WPRO）等の国際機関及び外国政府機関等との協力（感染症国際対策のための専門家派遣、保健大臣等要人の受け入れ等を含む）の調整、関係外国研究機関との協力調整等、以下のような業務を実施している。

I. 諸外国との技術協力の調整

諸外国との技術協力については、外国人研修生の受け入れと、国立感染症研究所からの専門家の派遣といった人的交流がその中心となる。外国人研修生の受け入れについては、平成28年4月から平成29年3月までに、50カ国から220名の外国人研修生等を受け入れた（別表1）。また、国立感染症研究所の専門家の派遣については、平成28年4月から平成29年3月までに、41カ国464名の派遣を行った（別表2）。

また外国政府機関との協力については、研究協力に関する覚書の締結及び関係国との国際シンポジウムの開催を行っており、その概要は以下のとおりで

ある。

1. 外国機関との連携協力

(1) 各国との感染症協力体制

ア 研究協力に関する覚書（MOC）の締結

(ア) 平成29年2月23日 韓国国立医薬品食品評価研究所（NFDS）とワクチン及び生物製剤の品質管理分野の研究協力等に関する覚書（MOC: Memorandum of Cooperation）を締結。

イ シンポジウム開催

(イ) 平成28年9月6-7日 台湾の感染症研究機関である台湾国立疾病予防センター（台湾CDC）と第13回日本-台湾感染症シンポジウムを開催。（台湾・台北にて、急性呼吸器感染症、結核、薬剤耐性（AMR）、FETP（Field Epidemiology Training Program）の活動、および共同プロジェクト報告を題材に、両機関における取り組みなどについて意見交換を行い、情報を共有した。）

(イ) 平成28年12月19日 日中韓の国立感染症研究機関〔感染研、中国国立疾病対策予防センター（中国CDC）、韓国国立感染症対策センター（韓国CDC）〕の第10回日中韓感染症フォーラムを開催。（中国・北京にて、ジカ熱、中東呼吸器症候群（MERS）、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）、インフルエンザを題材に、両機関の取り組みなどについて意見交換を行い、情報を共有した。）

ウ 外国機関へのワクチン株供与

平成28年5月 韓国食品医薬品食品評価研究所に参照品の力価試験のため「日本脳炎ワクチン」を供与。

エ 共同研究報告会ほか

平成28年12月 インド・コルカタにて、

インド国立コレラ腸管感染症研究所 (NICED) との
日印共同研究発表会を開催。

2. 国際協力・研修業務

(1) JICA の研修への協力

ア 集団研修

(ア) 平成 28 年 6 月 8 日-7 月 8 日 課題別研修「サーベイランスを含む HIV 対策のための検査技術・実験室マネジメント」(6 カ国・10 名・エイズ研究センター)。

(イ) 平成 29 年 1 月 16 日-2 月 10 日 課題別研修「ポリオ及び麻疹を含むワクチン予防可能疾患の世界的制御のための実験室診断技術」(8 カ国・13 名・ウイルス第二部、ウイルス第三部)。

イ 集団研修フォローアップ

なし

ウ その他研修

(ア) 平成 28 年 6 月 17 日 ザンビア国「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ達成における日本の経験」(1 カ国・6 名・感染症疫学センター)

(イ) 平成 28 年 8 月 8 日「地域保健システム強化による感染症対策」(12 カ国・13 名・寄生動物部・感染症疫学センター)

(ウ) 平成 28 年 9 月 9 日「感染症対策行政研修」・10 カ国・12 名・感染症疫学センター)

(エ) 平成 28 年 9 月 15~16 日「コンゴ民 戦略的マネジメント」(1 カ国・4 名・企画調整主幹・ウイルス第一部・感染症疫学センター・バイオセーフティ管理室・獣医科学部)

(オ) 平成 28 年 10 月 21 日「包括的なウイルス肝炎対策」(2 カ国・6 名・副所長・ウイルス第二部)

(カ) 平成 28 年 12 月 19~20 日「パキスタン 母子保健における定期予防接種」(5 名・ウイルス第二部・ウイルス第三部・感染症疫学センター)

(キ) 平成 29 年 1 月 15 日~2 月 11 日「フィリピン・ベトナム「ワクチン品質・安全性確保のための国家検定機関強化」(2 カ国・10 名・ウイルス第一部・ウイルス第二部・ウイルス第三部・細菌第二部・感染

病理部・血液安全性研究部・品質保証・管理部・バイオセーフティ管理室・動物管理室・病原体ゲノム解析センター・インフルエンザウイルス研究センター)

(ク) 平成 29 年 1 月 24, 25, 27, 31 日「安全な輸血確保による感染症予防」(3 カ国・6 名・ウイルス第一部・ウイルス第二部・細菌第一部・寄生動物部・血液・安全性研究部・バイオセーフティ管理室・感染症疫学センター・エイズ研究センター)

(ケ) 平成 29 年 2 月 22 日「中国パンデミックインフルエンザ及び新興・再興感染症プロジェクト」(1 カ国・8 名・感染症疫学センター)

(コ) 平成 29 年 2 月 28 日「HIV/エイズ予防および対策~MDG6 達成に向けて~」(6 カ国・8 名・感染症疫学センター・エイズ研究センター・バイオセーフティ管理室)

(2) JICA 技術プロジェクト等への協力

ア ベトナム国における JICA 協力(感染症の予防・対応能力向上のための実験室の機能及び連携強化プロジェクト)

(ア) 派遣

① 平成 28 年 12 月 14-23 日 詳細計画策定に係る調査を行うため、バイオセーフティ管理室 職員 1 名をベトナム NIHE に派遣。

② 平成 29 年 2 月 13-17 日 第 2 回詳細計画算定調査を行うため、ハンセン病研究センター感染制御部職員 1 名をベトナム NIHE に派遣。

イ ナイジェリア連邦共和国における JICA 協力 (NCDC 協力に係る調査)

(ア) 派遣

平成 29 年 1 月 4 -12 日 調査団員としてウイルス第一部職員 2 名を派遣。

ウ ベトナム国・フィリピン共和国における JICA 協力(「ワクチン品質・安全性確保のための国家検定機関強化(WHO との連携案件)」課題別研修フォローアップ及び新規国別研修ニーズ調査)

(ア) 派遣

平成 28 年 5 月 22-28 日 品質保証・管理部職員 1 名をベトナム NIHE に派遣。

国際協力室

エ コンゴ民主共和国「国立生物医学研究所拡充計画」における JICA 協力

(ア) 派遣

平成 28 年 6 月 18 日-7 月 3 日 拡充計画準備調査の調査団員としてバイオセーフティ管理室職員 1 名を派遣。

オ 米国アトランタで開催される US CDC の研修参加における JICA 協力

(ア) 派遣

平成 29 年 1 月 2-9 日 研修参加として感染症疫学センター職員 1 名を派遣。

カ ブラジル国「東北ブラジル健康なまちづくりプロジェクト」フォローアップ協力における JICA 協力

(ア) 派遣

平成 29 年 3 月 6-12 日 調査団員として昆虫医科学部職員 1 名を派遣。

キ ケニア共和国「アフリカ保健課題に係る国際会議出席 (AHAIC 2017)」における JICA 協力

(ア) 派遣

平成 29 年 3 月 6-11 日 調査団員として、ウイルス第一部、国際協力室職員各 1 名を派遣。

(3) 国際緊急援助隊への協力

ア コンゴ民主共和国における黄熱病感染拡大に関する国際緊急援助隊への協力

(ア) 派遣

①平成 28 年 7 月 10-19 日 調査チームの隊員としてウイルス第一部、感染症疫学センター職員各 1 名を派遣。

②平成 28 年 7 月 20-31 日 黄熱緊急援助隊員としてウイルス第一部職員 2 名を派遣。

(4) その他研修協力等

ア 平成 28 年 6 月 22 日 名古屋大学大学院医学系研究科修士課程医科学専攻医療行政コース ヤング・リーダーズ・プログラム (9 カ国・11 名)

3. 国際機関及び外国政府機関等との協力

(1) WHO・WPRO 関連調整

ア 会議等開催

平成 28 年 6 月 13-15 日に、感染研において、Ad Hoc Small Working Group of the GPLN (Global Polio Laboratory Network) を開催。

イ 会議等派遣

(ア) 平成 28 年 4 月 3-8 日 優先すべき感染症に関する健康技術の開発及び生産を支援する潜在する基盤の計画に関するワークショップに参加 (スイス・1 名)

(イ) 平成 28 年 5 月 3-7 日 インフルエンザパンデミックリスク評価の手法確立のための会議 (スイス・1 名)

(ウ) 平成 28 年 5 月 15 日-5 月 21 日 ポリオウイルスの迅速診断のためのリアルタイム RT-PCR 実技トレーニング参加 (フィリピン・1 名)

(エ) 平成 28 年 6 月 13 日~16 日 WPRO が主催する域内のデング熱サーベイランスにかかる会議 (フィリピン・1 名)

(オ) 平成 28 年 6 月 20 日~25 日麻疹と風疹の制御ならびに排除に向けての進展の促進会議 (スイス・3 名)

(カ) 平成 28 年 6 月 27~7 月 1 日 WHO 技術会合 (GISRS システムを用いた RS ウイルスのサーベイランスの試行) (スイス・1 名)

(キ) 平成 28 年 6 月 28-7 月 2 日 感染症対策のための協調に係る国際戦略シンポジウムおよびワクチンの品質規格に係る第 3 回 WHO 共同研究センター会議 (韓国・2 名)

(ク) 平成 28 年 7 月 25-30 日 第 25 回 WHO 西太平洋事務局のワクチン接種に関する技術委員会に参加し討議を行う (フィリピン・5 名)

(ケ) 平成 28 年 7 月 27-30 日 WHO/UNICEF のポリオウイルスワクチン (OPV / IPV) の製造業者と国家検定機関の協議に参加 (スイス・1 名)

(コ) 平成 28 年 8 月 22-30 日 「第 8 回広範な防御効果および長期間の免疫反応を誘導するインフルエンザワクチン開発に関する WHO 会議」および「第 9 回インフルエンザ制御に関するオプション会議」(米国・1 名)

(サ) 平成 28 年 8 月 22-30 日 ワクチン国立検定機関グローバルネットワーク会議 (オランダ・1 名)

(シ) 平成 28 年 8 月 29-9 月 2 日 第 7 回日本脳炎の予防とコントロールに関する多地域間会議 (フィリピン・1 名)

国際協力室

- (ス)平成28年9月13-16日 第6回WPRO ワクチン予防可能疾患実験室ネットワーク会議(フィリピン・4名)。
- (セ)平成28年9月26-30日 第5回西太平洋地域ワクチン規制当局ワークショップ(フィリピン・2名)
- (ソ)平成28年9月21-9月25日 ポリオワクチンの安全な生産に関するWHOガイドライン作成のためのワーキンググループ会議(スイス・1名)。
- (タ)平成28年9月25-10月2日 WHO南半球インフルエンザワクチン株選定会議およびWHOコラボレーションセンターとサーベイランスと対応システム主要研究機関会議(スイス・3名)。
- (チ)平成28年10月16-22日 生物学的製剤の標準化に関する専門家委員会(スイス・3名)
- (ツ)平成28年10月24-29日 ポリオ実験室診断小委員会会議(フランス・1名)
- (テ)平成28年10月25-30日 ハンセン病の薬剤耐性の伝播監視事業に関するWHOワークショップ(ネパール・2名)。
- (ト)平成28年10月31日-11月4日 第18回WHO痘瘡ウイルス研究アドバイザリー委員会(スイス・1名)
- (ナ)平成28年11月14日-18日 第7回WHO西太平洋地域日本脳炎ウイルスグローバルおよびリージョナル専門ラボラトリー会議(中国・1名)
- (ニ)平成28年11月14日-18日 組換えHPVワクチンに関するWHOワークショップ(中国・1名)
- (ヌ)平成28年11月27-30日 薬剤耐性菌フォーラム(フィリピン・3名)。
- (ネ)平成28年11月27-30日 第2回西太平洋地域WHO協力センター会議(フィリピン・3名)
- (ノ)平成28年11月30-12月3日 西太平洋地域FETPワークショップ(カンボジア・1名)
- (ハ)平成28年12月5-10日 インフルエンザ調査に関する協議会議(スイス・1名)
- (ヒ)平成28年12月12-16日 東南アジア国立試験機関ネットワーク会議(タイ・2名)
- (フ)平成29年2月14-18日 第5回B型肝炎専門家パネル会議(フィリピン・2名)
- (ヘ)平成29年2月16-26日 ラオスにおける国際保健規則(IHR)の合同外部評価ミッション(ラオス・1名)
- (ホ)平成29年2月26-3月5日 WHO北半球用インフルエンザワクチン株選定会議、WHOコラボレーションセンター全体会議、インフルエンザの世界的監視・対応システム会議(スイス・3名)
- (マ)平成29年3月12日-3月18日 ポリオ実験室診断小委員会会議および第22回ポリオ実験室ネットワーク非公式会議(スイス・1名)
- (ミ)平成29年3月19-24日 ブルーリ潰瘍に関するWHO会議(スイス・2名)
- (ム)平成29年3月21-25日 パンデミックインフルエンザに備える為の対策計画会議(スイス・1名)
- (メ)平成29年3月23-4月4日 WHO西大西洋地域事務局において実施されるWPROのFETP向け研修プログラムの評価(フィリピン・1名)
- ウ WHOフェロウシップ受入
- ①平成29年1月30日-3月3日 ワクチンの品質管理に関する研修(ベトナム・5名・ウイルス第二部・細菌第二部・インフルエンザウイルス研究センター・バイオセーフティ管理室・動物管理室)
- ②平成29年3月27日-3月30日 薬剤耐性菌に関する実践的な実験トレーニング(細菌第二部・バイオセーフティ管理室)
- エ WHOによる査察
- 平成28年10月20-24日 WHO Laboratory Accreditation Visit(実験室適格性評価のための訪問)
- オ WHO総会及び執行理事会に関する対象方針案への厚生労働省国際課からのコメント依頼への対応。
- #### 4. その他協力、調整
- (1) 国際会議支援(所内開催)
- ア 平成28年7月12-13日 ジカ熱ワークショップ(ウイルス第一部・昆虫医科学部)
- イ 平成29年1月9-10日 狂犬病ワークショップ

国際協力室

ブ (獣医科学部)

(2) 国内会議支援(所内開催)

なし

(3) 海外の要人來訪

- ア 平成 28 年 4 月 15 日 WPRO, SEARO の地域事務局長 2 名 (Dr. Shin Young-soo、Dr. Poonam Khetrupal Singh) 表敬訪問、意見交換。
- イ 平成 28 年 4 月 18 日 米国国務省副長官 (Mr. Antony J Blinken) ほか 5 名 (米国保健福祉省、米国大使館) 表敬訪問。意見交換。
- ウ 平成 28 年 6 月 13 日 インド ICNR 所長 (Dr. Soumya Swaminathan) ほか 1 名 (在日本インド大使館) 表敬訪問、意見交換。
- エ 平成 28 年 7 月 7 日 中国 CDC 所長 (Dr. Wang Yu) 表敬訪問、意見交換。
- オ 平成 28 年 9 月 15 日 ブータン NCAH 所長 (Dr. Dukpa) 表敬訪問、意見交換。
- カ 平成 29 年 1 月 18 日 WHO WPRO, Consultant (Dr. SyedShah), WHO SEARO, Medical Officer (Dr. Martin Eisenhower) 表敬訪問、意見交換。
- キ 平成 29 年 1 月 20 日 WPRO technical officer (Dr. Varja GARABOVAC) 表敬訪問、意見交換。
- ク 平成 29 年 1 月 24 日 ガーナ保健省健康局長 (Badu Sarkodie) 他 1 名 表敬訪問、意見交換。
- ケ 平成 29 年 2 月 16 日 サウジアラビア保健省教務・研修総局長 (Dr. Mansour Saleh Alyami) ほか 2 名 表敬訪問、意見交換、見学。
- コ 平成 29 年 2 月 23 日 韓国 NIFDS 所長 (Dr. Yeowon Sohn) ほか 3 名 表敬訪問、意見交換。MOC の締結。

(4) 感染研セミナー等の開催

なし

II. その他の国立感染症研究所所掌事務に係る調整等

1. 国際交流事業に係る募集・申請等

日本学術振興会等国際交流事業 (外国人研究者招へい、国際学会等派遣に係る募集、申請手続、調整等) を行っている。

(1) 外国人特別研究員

なし

(2) 二国間共同研究

平成 26 年 4 月 1 日 - 平成 29 年 3 月 31 日

ベトナム (VAST) (エイズ研究センター)

「ベトナムにおける HLA 関連 HIV 変異の解析」

2. 国際協力連絡・調整等

実地疫学専門家養成コースに係る調整の他、厚生労働省結核感染症課、国立保健医療科学院、国立国際医療研究センター等との国際協力連絡・調整等を行っている。

日本医療開発研究機構補助金の外国人研究者向け研修等の受入を行っている。

3. その他

感染研インターネット上の専用ページ「国際協力」において、国際研究活動の情報を提供している。

所内専用ページにおいて、全ての職員の海外活動情報 (海外出張報告書) の還元、外国人研究者の来日に係る手続きや日本学術振興会交流事業にかかる応募情報等掲載している。